

京都工芸繊維大学 岩崎振一郎

壺坂 昭八

○坪井きよ子

先に木綿金巾を使用し、澱粉糊料、加工澱粉糊料、CMC、PVA等各種糊料で、0.5、1、2、3、5%各濃度に糊付をなし、洗滌委員会方法にもとずき人工汚染を行い、マルセル石鹼、ソープレスソープを用いて、冷温、 $40 \pm 1^\circ\text{C}$ 各温度でランドロオーメーターにて洗滌を行い、各種糊料の洗滌に及ぼす影響を考察したが、本報に於いてはビニロン平織を用い各種重合度PVA、部分鹼化PVA、小麦澱粉、コーンスターチ、CMC、で糊付を行い、糊料の洗滌に及ぼす影響を考察した。これによるとCMC、部分鹼化PVAは糊濃度の増加と共に洗滌効率が増し、第三報に於いて繊維、糊料、汚れ、洗液間の洗滌に理論的考察を行ったが、理論が正しいと云う事がビニロン平織と各種糊料間に於いても証明された。